

■ 編 集 委 員

齋藤 一之（委員長）

穂田 真澄

板橋 明

糸山 進次

小山 勇

清水 道生

鈴木 洋通

竹内 勤

土田 哲也

西村 重敬

松下 祥

丸山 敬

持田 智

渡辺 修一（五十音順）

■ 編 集 後 記

「埼玉医科大学雑誌」31巻3号をお届けします。

4月に委員の一部改選がありました。編集委員は1期2年を2期勤めるというのが不文律となっており、委員長である私も本来であれば任期満了となるところ、学長の交代や学内の機構改革などの事情から、例外的にもう少し勤めることになりました。どうかもうしばらくご辛抱をお願い申し上げます。

医学会や学内雑誌はどうあるべきか、この3年間、諸先生にご意見をうかがい、私なりにも考えてまいりました。学術集会については、平山前委員長の敷いたシンポジウム形式を踏襲し、テーマを「ゲノム」、「感染症」として、学内外の多くの先生方にご発表いただきました。いずれ劣らぬ全力投球の内容で、取材にきた医学系新聞社が特集記事を組んだほどです。しかし、学内の関心は高いとはいえず、参加者も少なく、主催者としては演者の先生に申し訳ない気持ちすら感じました。

学問の専門化が進み、医学会会員の広い関心をひき、かつ聴いてある程度理解できる内容のテーマを設定しにくくなっていること、学会、シンポジウム、セミナーなどが内外に満ち溢れていること、また、その多くが専門医の資格取得・更新とリンクしていること、さらには、臨床系の若手会員は忙しく、時間が取りにくいなどなど、このような現状には多くの理由があるかと思われませんが、一応冷却期間ということで、2003年度の学術集会は休止とさせていただきました。情報の満ち溢れている現在、一医科大学の学内学会はすでに役割を終えたとみるべきなのか、それともストラテジーの問題なのか、そろそろ結論を出さなければなりません。

人間に寿命があるように、システムにも寿命があります。皮袋のほころびを繕っても、皮が劣化しては、もはや新しい酒は盛ることができません。とはいえ私たちは本質的にきわめて保守的で、古い皮袋を放棄することができるのは、いままでそれを愛用してきた者にはかなり勇気の要ることなのだと思います。

会員各位からの真摯なご意見、ご叱正を切に希望しております。

（齋藤 一之）

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第31巻 第3号 通巻114号（季刊）

編集責任者 齋藤 一之

平成16年6月30日 発行

発行所 埼玉医科大学医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2125(直通) FAX 049(276)2127 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制作 株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741(代) <http://www.atene.co.jp>